

爪切り屋メディカルフットケアJF協会 協会通信

NO.29

心つなぐ足へのメッセージ

2017年 10月 発行

編集・発行 爪切り屋メディカルフットケアJF協会 広報委員会
〒179-0085 東京都練馬区早宮3-12-5 TEL 03-3992-1824 Fax 03-3992-3309

爪切り屋メディカルフットケアJF協会

会長 宮川 晴妃



豪雨被害のニュースに心が痛みます。

会員の皆様には、お変わりなくお過ごしでしょうか、案じています。

当協会のキャッチフレーズの「心をつなぐ足へのメッセージ」こんな言葉を覚えていませんか、忘れていたら、思い出して下さい。私達フットケアワーカーは「人に対して思いやる心」を持ち施術を行うことでADLの改善QOLの向上に役立っています。立つこと歩くことは人生を過ごすうえで重要な要素なのです。行きたいところに行ける喜びを繋げていくという事

になります。その為に基礎技術をしっかり学んで来ました。なぜ、なぜ、の間から始まります。爪下の両角の角質が取れていない時はゾンデが回ってなく搔き出しているのかも知れません。爪を切る時も挟んでいるのに切れない時は、爪の形状から外れてニッパーを使っているのかも知れません。洗足、ふき取り、スリッパ、指の持ち方等もう一度確認をいたしましょう。

これから、もっと評価され必要とされるフットケアです。優しい心、温かい手、みんなが持っています。頑張りましょう。

第36回研修会 会長講演代演

副会長 西脇 友子氏



宮川晴妃会長が諸事情の為、午後からの参加となり、西脇副会長が代演されました。

1. 情報提供 フットケアプログラム鎌倉分類の紹介

平成28年より人工透析患者の「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」（下肢救済加算）が認められ、透析施設のフットケアが広がってきています。

鎌倉分類は末梢動脈疾患・足病変の有・無で6段階に分け、フットケアの間隔と実施の内容を定めたものです。2011年の導入後2年間で導入前より下肢潰瘍、切断の件数が減り、効果があった報告の紹介です。

2. 書籍紹介 水口慶高著「足についての本当の知識」 実業之日本社 2013年発行

著者の水口氏は自身の膝を痛めたことからインソールと出会い、足部(下肢)のバイオメカニクス(生体力学)、機能的医療用足底板理論を学んだ方です。アーチ機能を「柔らかい足」「硬い足」と解説、ロッカー機能、過剰回内と外反母趾など、体の動きと足の構造の関係性を考える内容の本の紹介です。フットケアワーカーとして「立つ」「歩く」を考えるのに興味深いお話でした。

西脇副会長には靴を脱いでの実演も入る講演ありがとうございました。

興味のある方は、ぜひ本を手にとってみてください。

特別講演 高齢者の足と靴について

徳武産業(株) 営業部部长 東京営業所所長

徳重 隆 氏

「お年寄りが転ばない靴を作ってほしい」という依頼から始まったケアシューズあゆみの徳武産業(株)は、今年60周年を迎え、



テレビ(日本の力)でも紹介されました。

履きやすい靴はもちろん足の変形等にも配慮した左右サイズ違いの販売、片方半額販売、そして

①豊富な足囲サイズ(11Eや17Eもあります) ②靴底の高さ調整③ゴム底に変更④靴ベルトの開閉方向変更⑤折り返しベルトへの変更などの細かなパーツオーダーは作り手の思いが伝わる内容でした。

これまで靴選びはとても難しく感じていました。会場に展示された靴を一つ一つ説明して頂き、手に取って見ることもでき、介護予防に目を向けた外出用の靴も充実していることを知って、今後に活かしたいと思う講演でした。



アンケートでも大変好評だったこの講演は木村理事ご夫妻のご尽力で実現しました。徳重氏・木村理事ご夫妻ありがとうございました。

事例検討会

今回の事例検討会では3つの事例についてグループに分かれての検討と全体発表が行われました。

巻き爪の事例では「どこをどのように削ればよいか」「どこまで切るか」「まず除圧して爪を緩ませるとよい」等々グループごとに熱心な意見が出されました。巻き込みの強い角の施術に注目しがちだが、先に巻きの緩い方の角質を取り除き除圧すると巻いているほうの施術がしやすくなる。また、前回の研修会で紹介された薄いダイヤモンドファイルをととても有効に使っているという実践例も出され、会場からは「ぜひやってみよう」という声があがりました。割れ爪の事例は会場に参加していた会員自身の



爪ということで、実際の爪も見ながらの検討となりました。数か月色々試みたが改善しないという事例です。

- ・割れているところまでできるだけ切る
- ・爪母をマッサージする
- ・段差を削る

「一年待て」というおおらかな意見もあり、会場は和やかな雰囲気になりました。

宮川先生から「割れて中に凹んでいるところに繊維を入れおこすとよい」「テープで保護をする」等コメントがありました。次回以降の実践報告が楽しみです。

☆皆様からの事例もお待ちしています



サロン報告 爪切り屋フットケアしろくま 石井裕美子



フットケア空間



フットケア風景



足の模型

千葉県八千代市にて爪切り屋フットケアしろくまをはじめて14年になります。2004年8月にメディカルフットケアワーカー1級を取得し、看護師として働きながら、11月に院内でフットケアをはじめました。その当時は病院のフットケアが忙しく、訪問でケアすることは考えてもいませんでした。ところが「自宅に来てケアをしてほしい」という相談が相次ぎ、病院から訪問でフットケアに行くことはできないため、12月にプライベートで訪問フットケアをすることになりました。これが爪切り屋フットケアしろくまのはじまりです。

訪問のみではじまった爪切り屋フットケアしろくまは、2006年にお客様に来ていただいてケアができる場所を確保し、今は週に3日ケアを行っています。週末は、仕事をしている若い方が多くケアに来られ、訪問、病院のフットケアとは違った雰囲気です。2014年には、メディカルフットケアワーカーの資格をもち千葉で活動している海上さん、須藤さんともメディカルフットケ

アちばとして、訪問フットケアの依頼、情報交換するなど協力体制が整いました。

日々のケアでは、約1時間ケアをするなかでの会話を通じて、足に対する知識を伝えるよう心がけています。特に「なぜ足の爪にトラブルを生じたのか？」を、足の模型や本などを用いて、お客様にわかりやすく説明することに力を入れています。ここをしっかりと理解していただくと、爪だけが悪いのではないこと、何に気を付けていけばよいのかがわかるので、足の状態がよりよく改善し、ケア後も足や爪を良い状態に保つことができます。

今後は、足や爪のトラブルをおこさないための知識、トラブルを早期発見しケアすることの大切さなどを伝える予防的活動も行ってゆきたいと思っています。

☆爪切り屋フットケアしろくま web サイト
<http://footcare-shirokuma.blogspot.jp/>☆

ツイッターもやっています
<https://twitter.com/fc4690>

新商品紹介



ダイヤモンドファイル ¥1800



L字コネクター ¥1600

◇ダイヤモンドファイルはステンレス板に細かい天然ダイヤモンド砥粒を乗せたもので、長さ11.5cm幅1cm厚さ0.8mm。細かいところに入れやすくよく削れます。巻き爪の角などは腹爪を削りすぎるとさらに巻いてしまうので注意が必要です。軽くなできるように使うのがコツです。目の細かさは3種類あります。（#60#120#180）

◇L字コネクターはポータブルグラインダーG3のハンドピースに繋がります。作業時にスムーズに動き、接合部の傷みを防ぎます。 ※価格はいずれも会員価格

皆さん、こんにちは。

協会通信 28 号でブラジルのサンパウロ日伯援護協会サントス厚生ホームでのボランティア活動と、ブラジルのフットケアを紹介させていただきました、宮城県仙台市在住の八島ゆみです。

今回は2年間のボランティア活動からブラジルの高齢者介護事情についてお話ししたいと思います。

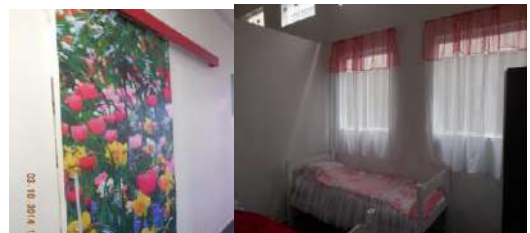
ブラジルの高齢化率は2010年で7.3%、2015年には7.8%になり着々と高齢社会への道を進んでいますが、介護保険制度はもちろんなく、社会保障は不十分です一般的にブラジルでは要介護状態になると、富裕層は10～20人規模の有料ホームに入居したり個人で家政婦を雇います。貧困層は、個人、または援護団体の寄付で運営する老人ホームへ入居したり、在宅で家族介護になります。デイサービスセンターはまだないようです。

日系高齢者施設は、第2次大戦後、日系人に対する救済援護策としてカトリック教会の団体が日系高齢者施設『憩の園』を1958年に開設したのが始まりです。その後各地で日系団体が高齢者施設を設立しました。

サンパウロ日伯援護協会は、私の配属先であったサントス厚生ホーム(1975年開設)の他、グアリュウリョス市、スザノ市、カンボス市に開設。赤道直下ベレン市のアマゾニア日伯援護協会も『厚生ホーム』を開設。現在はいずれの施設でも非日系高齢者の受け入れがあります。入居料が安い日系施設の入居を希望する方が増えているのです。

日本もブラジルも核家族化に伴い、独居や高齢夫婦世帯が年々増加しています。施設入居希望の理由が日本では『認知症』や『身体機能の衰え』であるのに対し、ブラジルでは『治安の不安』が多いことに驚きました。実際、入居前日に強盗にあった方もいらしたくらいです。

入居者が「日本は地震が多くて怖いねー」とよく言っていました。『強盗の方が怖いよ…』といつも苦笑の私でした。



ブラジルの有料老人ホームは装飾が華やか



日系高齢者施設第1号『憩の園』



あけぼのホームのサロン



ベレンの厚生ホームの日本庭園

(グアリュウリョス市)

会員の鵜川禎子さんの活動が、福島民報新聞に掲載されました。

編集後記

異常気象の続く中で秋晴れの穏やかな日は、ほっとします。各地で頑張っている皆さんの皆様、新聞や雑誌等に掲載されましたら、自薦他薦を問いません。どうぞ広報担当までお知らせください。

高年齢者の爪ケア方法学ぶ
 介護福祉士会津 技術向上を目指す
 県介護福祉士会会津支部の「高年齢者の爪ケア勉強会」は四日、会津若松市の會津糟古堂で開かれた。
 介護福祉士が爪に関する知識を深め、技術向上を図るために企画した。
 市内のハサムワーマンの鵜川禎子さんが講師を務め、加齢で変形、変質した爪を安全に切る方法を指導した。爪の構造や高齢者が抱える爪の問題や悩みなどについても学んだ。
 工事請負業者ら49号国道を清掃
 猪苗代「西会津間 国土交通省郡山国道事務所会津若松出張所管内の工事請負業者でつくる安全協議会は三日、猪苗代町から西会津町までの四九号国道

鵜川さん(左)から指導を受ける参加者